

ニューダンガンロンパ 大戦V3FOREVER

五毒戦隊

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

才能学園に監禁された「超高校級」の力を持つ16人の生徒達。そこでゲームマスターのモノクマからコロシアイを強要されるが一同はこれに反対する。モノクマはこれに痺れを切らし新たな「コラボ企画」を開始するのだった。

序章

目次

1

序章

生徒達を体育館へと集合させたモノクマは全員の集合を確認してどこからともなく飛び出してきた。

『今回はなかなかロシアイを始めないシャイなオマエラのために新しいゲームを用意しました。』

「何を用意しようがお前たちの思い道理にはさせねえからな！なあ終ー！」
「う、うん」

百田が啖呵を切った。

『それはどうだかな！』

（おはつくまー）

モノキッドの声から5人組のモノクマ〔モノクマーズ〕が割って入った。

『今度のゲームはコラボ企画なんだ！』

『しかも大物コンテンツよ』

『キサマラにはホンマもつたいない企画やで』

上からモノタロウ、モノファニー、モノスケが話を勧めていく

「んあー…もったいぶってないで早く言わんか」

【超高校級のマジシャン】 夢野秘密子は今日もダルそうにしている

『仮面ライダーダヨ』

「仮面ライダー!?」

『あー!モノダムのクセにミーのセリフを取ってんじやねえぞ!』

『……………』

「でも、仮面ライダーって漫画原作の特撮番組だよねいくらコラボでも難しいんじゃない?」

一二次元に詳しい白銀つむぎがツッコんだ。

『コラボだから細かいことは気にしなくてもいいのよ』

『そもそもキサマラのインチキな才能に比べりゃへのカツパだぜ!ヘルイエー!!』

「いいから…さっさとゲームの内容を教えてよ」

春川魔姫は分が悪そうに話を進めようとしているが言葉の裏からは不穏な空気が漏れていた。

『それはね、この【ブランクウォッチ】に仮面ライダーの力を入れてライドウォッチにするんだ!』

「なんだか不思議な時計だね」

時計にまず注目するのは真宮寺是清の【超高校級の民族学者】らしい一面と言えるだろう。

『人数分あるさかいもちろん全員分キツチリ集めてもらうで』

「それはいいだよ、どうやってそのウオッチに力を入れるんだ？」

星竜馬が話が進む前に軌道修正する。

『えくと、どうするだっけ？』

『もう、「仮面ライダー本人からウオッチを使って奪ったり」「本人から力を入れてもらったり」するんでしょ！』

『アトハ「自分が変身して力を手に入れる」コトモデキルヨ』

『あー！思い出したよ！』

『長い前置きはこれくらいにして可愛いか我が子達よさつさと仮面ライダーの世界に送り込まんかーい！』

モノクマがモノクマーズをシバいてボコボコにした後エグイサルに乗せて誘導し、生徒達を無理やり異世界の扉と思わしき灰色のオーロラで囲い込んだ。

「いきなりかよー！」

「皆、ゴン太の後ろに下がって！」

「夢野さんは私が守ります！」

「もつと優しくしてよお……」

口々に騒いでいるがこの後強制的に転移させられた彼らの記憶はここで一度途絶えている。

次に目覚めた時、数人組で各世界に送られた彼らの目の前にはブランクウオッチが転がっていた。